

1. 評価報告概要表

作成日平成 20年 1月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100306
法人名	医療法人 光緑会
事業所名	グループホーム ラビットホーム
所在地	群馬県高崎市箕郷町富岡1427-1 (電 話) 027-371-7040
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(20 年 1 月 5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	4. 67人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋準耐火構造作り		
	1 階建て,	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費・寝具代
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 1, 150円		

(4)利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.5 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	綿貫病院、いづかきた医院、宮下皮膚科、藤川接骨院、秋森鍼灸院、やわたクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な丘陵地に、ホームが建てられている。「利用者が地域の中で心豊かに、安全な環境で過ごせ家族の安心、健康管理」を理念に掲げ取り組んでいる。「最後まで安心して生活できる場を」と、家族、医師、職員の見守りの中、看取りが行われている。法人代表の医師が毎日訪問し、入居者の健康管理が行われ、職員との連携も密に取れている。また、職員は勉強会を行い、質の向上に努めている。入居者に車椅子の方が多く外出する機会が少ないため、コンビニエンスストアに出張販売に来てもらい入居者一人ひとりが買い物を楽しんだり、すし屋出張してもらい握ったすしを食べたりと、地域の方の協力を得ながら楽しく安定した暮らしができるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を玄関に閲覧している。前回評価での改善項目は、ミーティングや運営推進会議で検討している。緊急時の対応や病気に対する勉強会を行ったりと改善に努力しているが、日々の生活の中で事故につながる危険を防止するための工夫をしながら、地元の人が自由に訪問でき交流するためにも、鍵をかけない課題を検討してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解し、管理者を中心に2〜3人でまとめ、法人代表とも話し合い、ミーティングで全職員で確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月ごとに行っている。家族に参加してもらうために、年間の会議開催日程を知らせ参加しやすい工夫をしている。会議では、ホームでの入居者の様子や外部評価の報告等行っている。家族から「職員の名前がわからない」と意見があり、名札を大きくわかりやすくするなど会議での意見をサービスの向上に活かしている。また、家族から市の人に質問が出たりとい交流の場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安は、面会時や運営推進会議等で聞いている。また、ホームの忘年会では、家族と交流するなかで意見を聞き運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃活動に職員が参加し、交流をもっている。入居者と地元のお祭りや花火大会に出かけたり、ボランティアが販売している饅頭を買いに行き話したりと、地域の人とのつながりを大切にしている。また、ホームに、コンビニエンスストアやすし屋に来てもらい、入居者と外部の人との交流する機会づくりにも努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、入居者が地域の中で心豊かに安全な環境で過ごせることと家族の安心などを掲げている。事業所の母体が医療機関であり、健康管理も掲げた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、週1回のミーティングや勉強会等で理念を共有し、意識づけを行っている。理念に添った取り組みを日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の連絡を区長から頂き、年2回の地域清掃に職員が参加したり、入居者とお祭りや花火大会を見学に行っている。また、近隣からのボランティアを受け入れている。しかし、丘陵地にあり車椅子を使用している方が多いため、散歩にはあまり出ていないため、地元の人々との交流は少ない。	○	地域の情報を得て参加したり、ホームでの行事等に招待するなど直接交流する場面づくりに努めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は管理者と職員2～3人で作成し、法人代表と話し合い、全職員で確認して作り上げた。外部評価の要改善事項については、ミーティングや運営推進会議で検討し、緊急時の対応の勉強会を開催する等改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームからの状況報告等を行い議事録に記載している。家族が参加しやすいよう年間の会議開催日程を、送付している。「職員の名前がわからない」と家族から意見があり、大きい名札をつけるなど会議での意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、ケアマネジャーが申請に行ったり、法人役員が行ったりしているが、管理者への報告が不十分である。	○	十分に管理者が状況を把握する機会をつくるとともに、管理者が市町村とのつながりを持つように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりを知っていただく為に、月1回の支払いには家族の来所をお願いして面会している。その際に、暮らしぶりや介護計画を含む月次結果報告書を渡して説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に意見や希望を聞くように努め、運営推進会議や家族と一緒に忘年会では、家族同士の交流が行われ、意見を聞く場になっており、「職員の名前がわからない」と家族から意見があり、大きい名札をつける等出された意見や希望を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時は入居者や家族に説明し、新しい職員が入った時には紹介している。異動や離職を抑える努力をして、入居者との馴染みの関係を保つことに努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は、先輩職員について実践の中で学んでいる。また、2～3ヶ月に1回、病気についてや急変時の対応等テーマを決めて、医師や歯科衛生士等を講師にした勉強会を行い、レベルアップに努めている。勉強会には、夜勤者以外は全員参加できるように19時から行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っており、他事業所との交換研修を行ったり、他のグループホームに勉強会開催を呼びかけ実施したり、同業者からの学びを運営に活かし、質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は、見学や面談を行い、本人や家族の希望をよく確認し、納得した上でサービスが受けられるようにしている。入居後、家族が3週間程宿泊した事例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者が人生の先輩という考えを持ち、戦争体験の話から食料の大切さなどを教えていただき、日々の会話のなか等で学んでいる。ケアの際には、入居者から「ヘルパーは大変だ」と励ましの言葉かけをもらい支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の希望と家族の希望を聞き、日々のかかわりの中で声かけをして意向の把握に努め、なじみの暮らし方が継続できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせる為に、日々の生活の中や会話の中から思いや意見を聞き、また、家族には面会時に聞いて、介護計画に反映している。介護計画書は、前月の報告や情報と当月が一枚となって確認できる独自の計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、毎月ミーティングの中で結果評価を行い、月次報告にまとめている。代表者の医師に報告し検討して、医療面や生活面等の必要事項を記入し、一部を家族に渡している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業主体の代表者である医師が、デイサービスやショートステイを行い多機能性を活かした支援をしている。年末年始の外泊時等、家族の希望により自宅までの送迎を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望により、かかりつけの医師による継続的な医療が受けられるように支援している。職員は、日報に夜間の状態、食欲、便の状態、気になること等を記録し、事業主体の代表者である医師が、毎日来所か電話で健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方を、家族や医師と話し合い方針を共有している。終末期に家族が泊まったり、また医師が泊まり対応してくれるため、安心して看取りが出来る体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言動や行動を心がけている。記録等の個人情報は、事務室に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後テレビを観ている人、新聞を読んでいる人、数人で歌を歌っている人、居室で休んでいる人等一人ひとりのペースを大切に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の好みや希望の食材を取り入れて作成している。刻み食やミキサー食も色や味を変えないで、小皿に盛り付ける工夫をしている。中庭やベランダで食事やおやつを食べたり、すし屋に出張してもらい握ってもらって食べたりと食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	面会の多い日曜日以外は、入浴できるようにしている。週2～3回は入浴しているが、入浴を嫌がる利用者には無理に勧めず次の日又、声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事の後片付けなどの役割を担ってもらったり、塗り絵、折り紙、歌など楽しんだり、季節の行事を行ったりしている。ホームの近くに店がなく買い物が出来ないため、コンビニエンスストアに商品を持ってくるもらい、入居者が思い思いの買い物を楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭でお茶会や花火をして楽しんだり、時には近隣の梅林へ散歩に出かけている。入居者に車椅子の方が多いため、介護タクシーを使ってあやめやコスモス等の季節の花を見に外出するよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、以前起こった事故事例や交通事情等の環境から、家族に了解を得て、門と建物の出口は常時鍵をかけている。	○	入居者の安全は何より大切であるが、建物から自由に外が感じられ閉塞感がないように門まではいけるような工夫からでも取り組んで欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の点検は年2回受けている。防災の実技訓練は2名の職員が外部研修を受けており、今年度事業所で実施する予定である。災害時の連絡網や火災報知器の使い方は、全員で確認し、缶詰や水の備蓄をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、介護記録に詳細に記録され職員は情報を共有している。一人ひとりの状態にあわせ、治療食を支援し、食前に口腔体操をして摂取機能の維持、向上に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂や廊下には、天井に脱臭・空気清浄機が設置されており、不快な臭いはしない。台所では、履物を履きかえる等清潔面を考慮している。ガラス窓は大きく、バルコニーがあり、外の景色がよく見えて季節感が感じられ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人または家族の希望や状況により、ベット又は畳にしている。自宅で使い慣れた椅子・箆笥・テレビが置かれ、花や絵が飾られ、個性を感じる居室である。冬の室内乾燥を防ぐために濡れタオルを下げ、健康面でも居心地よく過ごせるような工夫をしている。		